

外交官セミナー

講師：石井正文 氏

(外務省総合政策外交政策局審議官)

日時：2011年6月18日(土) 10:30~12:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス



《講師プロフィール》

1980年に外務省に入省し、企画課長(1998-99)、南東アジア第二課長(1999-2002)、外務大臣秘書官(2002-03)、駐英公使(2003-06)、駐米公使(2006-09)などを務めた後、現在は外務省総合政策外交政策局審議官として外交政策とりわけ安全保障政策の企画を担当しておられます。

[傾向]と[対策]の二つの部門に分けて、お話していただきました。

A) 傾向

[傾向]を知る

① 日本がどれくらい力を持っているのか、また、どの方向に進んでいるのか。

② 周りの国がどの方向に進んでいるのか。

傾向=10年先を見つめて、ざっくりとした将来展望を見る。

傾向を見る中で→実行したことが成功する・当たるとは限らないが、傾向を見据えて考えることが重要。

③ ①と②を踏まえて、今何をすべきかを考える。

⇒結果が出る。

「選択」に直面する重要なグローバル・パワー：日本

★日本はまだまだグローバル・パワーを持っている。

・人口は世界で10番目

・GDPは中国に抜かれて3位

(1968年にGDPに2位になり、その後41年間2位をキープしていた。)

- ・日本は変革を必要としている。
 - ↙ 世界の GDP のうち 15 パーセントを占めていた。⇒8.5 パーセントに減少
 - UN の分担金は 12.5 パーセントに減少。(見直しが進められている)
 - ODA は 1 位から 5 位に下がった。
 - 他の国の成長 (日本は成長国へ投資をしている。)
- ・今の日本を変えるためには、その源を探さなければならない。⇒「選択」が必要。

助けを必要とする「唯一の超大国」：アメリカ

★多極化世界 (ヨーロッパ・アジア多くの国の進出)

- ・世界で人口の減少が進む中、先進国ではアメリカのみ増えている。
 - ⇒ラテン系移民が、アメリカ総人口の 15 パーセントを占める。
 - 30 パーセントになると予測されている。となると、白人の割合が減る。
 - ⇒雇用を増やす必要がある。
 - 現在は軍事費に費やしている。(その額は中国の 10 倍以上。)
 - ⇒今後 10・15 年はアメリカが世界をリードするだろう。
- ・中国・インドの成長率
- ・グローバリゼーション
 - 気候問題・テロ問題・兵器不拡散問題などまだまだ問題を抱えている。
 - 世界の国の助け合いがないと解決はできない。
 - 大国アメリカでも一国での解決は難しい。日本などの助けが必要だ。

不透明感を増す軍拡国家：中国

- ・日本は隣国が台頭する中で、力を伸ばしてきた。
 - 中国との協力していくことが大事だ。
- ・これからの 10・20 年間の中国の不透明さ⇒高齢化が進む。
- ※依存指数⇒人口に占める働かない人の割合 (年少と老人の割合)
 - ー日本は 33 パーセント (3 人に 1 人) 1990 年中頃から上昇。
 - ー中国は下がってきている。2010 年代中頃から上昇見込み。(一人っ子政策が手伝い、スピードも速く、40 パーセントになる可能性がある。そうなると、中国は厳しい局面にさらされる。)
- ・中国では「金持ちになる前に年寄りになる。」ということわざがある。
- ★中国政府に対する抗議件数
 - ・年間 8 万件 一日 200 件以上にもなる。(中国政府の統計によるが、もっと多いのでは?)
 - ・地方での抗議が多い。
 - ホウリンコー (カンフーをしながら健康維持) ⇒太極拳をしながら抗議活動するグループもある。
- ★天安門事件
 - ・反日抗議から始まり、反政府運動、民主化を求める運動へと発展した。

⇒始めは違う理由から始まっても、抗議理由が拡大することがある。

- ・共産党の問題にいきつくのでは？

⇒トップを選挙で選ぶ訳ではない。そのため、国のトップは自分の正当性になるものをアピールする。(例 毛沢東は国を統一したことをアピールした。)

※正当性になるものが減っている。胡錦濤は貧富の差の是正を正当性の根拠にした。

⇒しかし、貧富の差の是正には時間がかかるため、正当性の根拠には使いづらい。

安定した発展が一番理想的で、様々な政策を導入しても揺らいでしまう。

★軍拡国家

- ・軍も伸びている。軍事費 20 年で日本の 7・8 倍になるスピード。(アメリカの軍事費の 6 割。)

<軍事費対 GDP>中国 1.8 パーセント、日本 1 パーセント、アメリカ 4 パーセント

恐れる長期衰退アジア国家：ロシア

- ・国力が落ち込む可能性。(人口・老齢化が大きな影響。)

★人口

- ・1980 年頃より、毎年 30~40 万人減っている。
- ・男性は 61 歳が平均寿命。(アルコール中毒が影響。)
- ・イスラム系(多産の傾向。)が人口の 20 パーセントを占める。

モスクワには 250 万人のイスラム人がいる。

★産業

- ・石油の輸出に頼っている。(資源に頼る開発途上国のような産業体制。)
- ・製造業に力を入れている。

→しかし、権力がエネルギー会社に集中しているため、なかなか発展しない。

・アジアとヨーロッパの真ん中に位置しているが、ヨーロッパより、発展しているアジアとの関係に興味を示している。

→ロシア国内でアンケートをとった際、アジア側(東)の回答はヨーロッパ側(西)より楽観的だった。さらに、資源はロシアの東側に多くある。

・ロシアの東側の人口は少ない。→中国に勝てないので、日本とのつながりを深く出来ないか？と考えている。

節目を迎える分裂国家：北朝鮮

★息子への権力承継問題

- ・日本にも影響がある。
- ・世代交代の時代は一番政治が不安定になる。
- ・トップ 1・2 代目はカリスマ性で国を引っ張ることができるが、3 代目は実力が必要。

歴史的に 3 代目がうまくいけば、その後も国が続く。

キム・ジョンウに継がれると予想されるが、そうでない時にどう対処するかを考える必要がある。

自信を深める隣人：韓国

- ・今までは国力に自信がなかったようだが、自信がつき、北朝鮮問題以外の様々な問題にも対処しようとしている。日本の行動に対しても、依然より寛容になった。
- ・韓国も様々な問題を抱えている。→協力体制が必要。

台頭の時を迎える独立宇宙：インド

- ・ 2030年に中国の人口抜くと予想されている。若い人に見合う仕事が必要となってくる。
 - 国内産業→輸出産業へと移行している。
 - サービス業→製造業が発展している。
 - つまり、インドの産業形態が発展している。
- ・ 日本との貿易は、100億ドル満たす、インド貿易全体の20分1にも満たない。
- ・ 同盟を作らず、一国で存続していこうとしている。

二極分化の兆し：東南アジア

★ASEAN 加入国の国民にアンケート

Q：アメリカ・中国・日本の中でどの国に頼りますか？

- ・ 中国に頼ると回答したのは、シンガポール・マレーシア・タイ。
- ・ 日本に頼ると回答したのは、インドネシア・フィリピン・ベトナム。⇒人口の多い国

今までASEANとしてまとまっていたのが、二極分化の兆し

これを見てどうするか？

ゼロへの挑戦：核兵器ゼロへ

★アメリカの戦争問題⇒アフガン・イラク・パキスタンなど

⇒アフガンから駐留軍引き上げ

脆弱「国家のようなもの」

- ・ 政府の統治能力がない国が多い。(リーダーがいらないため)
 - 例えば、イエメン・ソマリア・スーダン(南北に分かれる)、サヘル地域(マリなど)
- ・ アルカイダを始めとする、テロリストの移動(問題の拡散)⇒アメリカ一国の手には負えない。

B) 対策

[対策] (日本の外交政策)

★引き続きアメリカとの関係を重要視するべき。

- ・日本⇒核保持国に囲まれている。
- ・日本は憲法上、核兵器を持ってないので、他の核保有国に守ってもらい必要がある。一方で、守ってくれる国の言いなりにはなりたくない。それでは、どの国に守ってもらいべきか？
有事の際に助けてくれる信頼感が必要。＝体制が似ているアメリカ
(中国やロシアではない。)
- ・同盟を結ぶのは一苦労。
軍基地問題で、地域の人には危険にさらされるが、米軍人も危険にさらされる場所に駐留している。

★留め金

- ・同盟国との関係
日本の貿易額は下がり続けていたが、最近少し上昇。⇒同盟国は見ているはず。

★ネットワーク作り

- ・横の関係を考える。
→3カ国の関係も重視。(増えていっている。)
- ・インテリジェンス(情報)の交換
→日米韓・日米オーストラリア・日米インドの関係が重要。
日本は同盟や会議にアメリカを参加させることで貢献できる。＝日本の付加価値
日米中の会議の場も作る予定だが、中国が反発している。
- ・インド・ブラジル・南アフリカ(BASIC)協定⇒世界への影響力は大きい。

★ルール作り 日本主導

- ・今年後半期の注目点は以下の会議で、どうルールを作るかだ。
→ARF(Asian Regional Forum) 2011年7月開催予定
→EAS(East Asia Summit) 2011年10月開催予定
- ・南シナ海⇒領有権をめぐる争い。
中国は領有権の主張
日本にとって、南シナ海の領有権獲得は労が多く益は少ない。
- ・EAS→(ASEAN10+日本・韓国・中国・オーストラリア・NZ・インド・アメリカ・ロシアも今年加盟)
- ・インドネシア(ASEANの議長国)がARF・EASを主催する予定

★プラン B

=予想外のことを見据えてその対策を考えていく。

例・北朝鮮の後継者問題

- ・北朝鮮のミサイル問題（総書記選挙に対抗馬が出たら、力を誇示するために発射する可能性もある。）
もし日本に領域にミサイルが飛んで来て死亡者がいなかったら⇒戦争には突入しない？
死亡者がでたら⇒突入する？
死亡者なでなくても、領土に被害をもたらしたら⇒交渉？戦争？
→アメリカなどと、このようなミサイル対策に関する想定を立てる予定。

★弱い二国間関係

- ・ネットワークを作るために必要。
- ・日本はロシアと韓国との二国間関係が弱い。
→共同声明：アメリカ・オーストラリア・インド・韓国とは結んでいない。
イミョンバク大統領を日本へ誘致することを考えている。
→通常関係を作るためにも北方領土問題を解決するべき。
ロシアの北方領土訪問＝交渉したいというサイン？
→ロシアも中国のみでなく他の国との関係を強め、多極化の傾向にある。

C) 質疑応答

質疑応答

★日本の外交が弱いと言われるのはなぜ？

- ・反論ができず、外国に押されてしまうから。他にも様々な要因がある。

★沖縄の軍基地問題

- ・アメリカ軍にとって、沖縄は有事の際に一番良い位置にある上、アジア地域全体の安全保障に繋がっている。

例えば、グアムに基地を置いても問題はないのだが、攻撃されやすい沖縄にアメリカ軍は命をかけて駐留している。＝日本とアメリカの信頼の証とも考えられる。

- ・沖縄地域の発展に貢献している。
- ・普天間は町の真ん中にあるので、市民の命も考えて辺野古へ移動させる予定がある。
- ・アメリカとしては、フィリピンに軍事施設の設置することも考えている。

★総理大臣がすぐに変わることによる外交への影響は？

- ・そこまで変わりはない。総理大臣が変わったからといって、他国との条約や約束事を破ることはないから。

アメリカだけが、大統領が変わって他国との約束事が守られないとしても、批判されない。

議事録文責：内海美瑠、江村望



D) 感想

講演を聞いて考えたこと

この講演を聞いて、日本が一国一国の外国とどのような局面にあって、今後どのような関係を築いていこうとしているのかが、よくわかりました。石井審議官からでないといけないような現在の日本外交の戦略が聞けて、今までは遠かった外交の世界が少し近づいたような気がしました。また、石井審議官の人柄がとても魅力的でした。私の中で、外交官というと堅いイメージがありましたが、石井審議官は笑顔で柔らかい印象でした。外国との関係を築く際に、そのような温和な人柄だと、良好な関係が築けるのではないかと感じました。講演後すぐに東京に帰られ、その後海外出張に行かれる程多忙な石井審議官のお話を聞くことができ、私にとって大変貴重な学びの場となりました。

江村望

今回の講演会で日本の外交問題をバイラテラルな視点より総合的な視点に移し変えて見ることができました。授業などで国際問題を考える際、日本とどこかの国の間に集中して見てしまいがちですが、実際その問題は他の国の利益や思考が反映していることがあるということを改めて学びました。今回約2時間と言う短い時間でこのような濃い話を聞くことができ大変光栄に思っています。もう少し時間があれば私の専門でもある中南米と日本の関係について質問できればよかったと思います。

内海美瑠

私たちの所属する総合政策学部、特に国際政策学科に集まってくる学生は国際関係や海外という、国境を超えた興味・研究を掘り下げていく人が多いのが特徴です。私もそういった学生の一人で、国際関係については普段の授業や日常生活を取り巻くニュースなどから自ら勉強したりもしています。しかし、机上の学びだけでなく、もっと手に取るように日本と世界の間に関係が起きているのか知りたいと思うのが学生の性でないでしょうか。今回の石井審議官の



講演は、ご本人の実務・経験に基づく「講義」でしたので、学生である私にとっては文献と向き合っただけの知識よりも、もっと現実味のある、生きた知識を手にとったように思えました。一時間半はあっという間でしたが、それ以上のものを石井審議官からご教授頂き、今後の学生生活、ひいては自分の将来への刺激ともなりました。

室岡孝奈